あなたの家は大丈夫ですか

新聞やテレビで伝えられる火災のニュース。外から聞こえる消防車のサイレン。でも「わが家は大丈夫」と思っていませんか。全国では約17,000件の住宅火災が発生し(平成16年)、かけがえのない命や大切な財産が奪われています。ちょっとした気のゆるみから発生する住宅火災の防止には、日ごろの心がけとともに、住宅用防災機器や防災製品などを活用することがとても効果的です。そしてちょっとした知識があることで防げる火災もたくさんあり、火災の原因と対策を知って住宅火災を起さないようにしましょう。

消防の広場
たんごの風 27号
119
火災・救急・救助
代表 62-0119
総務課 総務係 62-0119
管理係 62-0129
予防課 62-5119

何が原因で火災になるかご存知ですか

ストーブが原因の火災

▼主な火災・事故例

- 洗濯物がストーブの上に落下した火災。
- カートリッジ式給油タンクのフタの締め付け不十分による火災。
- ガソリンの誤給油による火災。

▼予防対策

- ストーブやファンヒーターの近くに洗濯物を干さない。
- ストーブやファンヒーターは、壁や襖などから離し、カーテンなどの近くで使用しない。
- 給油する場合は、必ず火を消し、火が消えたのを確認してから給油する。
- カートリッジタンクのフタが確実に締まっていることを確認してから収納する。
- 給油した時、灯油がこぼれたら必ず拭き取る。
- 燃料をよく確認してから給油する。**灯油は無色透明。ガソリンは赤い色。**
- 外出するときは、必ず消火する。

灯明（ローソク）が原因の火災

▼主な火災・事故例

- 灯明(とうみょう)(ローソク)、線香が倒れて仏壇に火がついた。

▼予防対策

- ローソク立てはローソクの大きさに合ったものを使う。
- ローソク、線香等に火をつけている時はその場を離れない。
- 灯明(ローソク)、線香の周りに燃えやすいものを置かない。

子どもの火遊びが原因の火災

▼主な火災・事故例

- 子どもがライターで火遊びをしていてカーテン等に火がついた。
- 子どもだけで、花火をしていて枯れ草等に火が燃え広がった。

▼予防対策

- マッチやライターは子どもの手の届く所に置かない。
- 花火遊びは、水バケツを用意して必ず大人が付き添う。
- 子どもに火の怖さを教えて、火気使用機器の正しい取り扱い方法を教える。
- 大人は子どもが火遊びしているところを見たら必ず注意する。

たばこが原因の火災

▼主な火災・事故例

- 火のついたたばこが灰皿から落下、くすぶり続け時間の経過とともに出火した。
- 寝たばこをして、たばこの火種がふとんに落ちた火災。

▼予防対策

- 寝たばこ、たばこの投げ捨てはしない、させない。
- ふとんなどに火種が落ちた時は、消えにくいので、全体を水に浸して消火する。また再び燃え出すこともあるため注意する。
- 灰皿には水を入れておき、吸い殻をためない。
- たばこの吸い殻は必ず灰皿に捨てる。

一酸化炭素中毒に注意！

寒い季節となり、ご家庭で暖房器具などを使用する機会が増えていますが、暖房器具などの不完全燃焼や、換気が不十分な事により、一酸化炭素中毒を起こして救急搬送される事例が全国で報告されています。

暖房器具を使用するに際して、日頃から器具の点検をして不完全燃焼を予防するとともに、定期的に換気して新鮮な空気を部屋へ取り入れ、一酸化炭素中毒にならないようにしましょう。

こんなに恐い！CO中毒

- CO（一酸化炭素）は、無色・無臭で感じにくい気体ですが、毒性は強力です。
- 手足がしびれて動けなくなることがあります。
- 重症になると、脳神経細胞を破壊したり、意識不明や死に至ることがあります。
- 軽い中毒症状は風邪の症状に似ています。頭痛、吐き気、気分が悪いなどの症状を感じたら直ちに暖房器具などの使用はお止めください。

着衣着火が原因の火災

▼主な火災・事故例

- 袖の長い衣類で調理していたら着火した。特に厚着の冬着などは衣類に火がついたことに気づきにくい面があります。

▼予防対策

- 衣服に火が燃え移ると、重度のやけどや死亡事故にもつながるということを知っておくこと。
- 高齢者や注意力の欠ける子どもに対しては周りの人が十分気をつけ、防炎製品の衣服(特にパジャマなど)の着用も考える。
- そで口に火がつくケースが多いので、特に調理する場合は、防炎製品の腕カバーを付けるのも一つの方法である。
- 新しく調理器具を購入するときは、例えば、電気調理器などを選ぶのもよい。

救急一口メモ　インフルエンザについて

インフルエンザは流感（流行性感冒）で普通のかぜ症候群ではないことはご存知のことと思います。急激な発病で上気道感染後、1～4日で高熱に達し、上気道炎や四肢痛の全身症状が一般的な症状です。

ウイルスの飛沫(ひまつ)感染で急激に流行します。ウイルスにはA型、B型、C型の3種類があって大流行はA型に多いです。程度は数日～1週間程度で軽快し、予後は良好ですが老人、幼児は重篤な経過をとることがあると言われています。

救急救命士
吉岡　昌俊

予防対策としては空気が乾燥すると喉の粘膜が弱くなってしまいますので家庭内では加湿を行い、また外出するときはマスクを着用することが勧められます。帰宅時には「うがい、手洗い」の励行。部屋は時々換気をするようにしたほうがよいです。

以上、ちょっとした心の持ち方一つで予防ができるのではないでしょうか。この冬はインフルエンザの流行が新聞やテレビを通じて報道されています。栄養、睡眠、予防接種」で健康管理をしましょう。